

熊本地本だより
10 月 号



自衛隊熊本地方協力本部

第八代 自衛隊熊本地方協力本部長 仲西 勝典 一等陸佐 着任



仲西本部長は八月二十三日（金）付で、東京は市ヶ谷の陸上幕僚監部から第八代自衛隊熊本地方協力本部長に着任されました。

本部長は福岡県出身で、これまで陸上幕僚監部人事補任課人事第二班長、第一〇施設群長及び陸上幕僚監部監理部総務課長等の陸上自衛隊における様々な要職を歴任されました。着任の辞においては、「私の二十八年間の自衛隊人生において、初の地元九州の地での勤務であり、また、この伝統ある熊本地方協力本部における本部長という職を拝命し、大変光栄に思うとともに、その使命と責任の重さを痛感しているところであり、



任の重さを痛感しているところであり、

本部長着任に当たっての所信を述べ、私の決意の一端を表明したいと思っております。私の統率方針は、「すべては実任務のために」であります。実任務に通用するか否かを物事の判断尺度として隊務を遂行していくということ。私のできる地方協力本部の使命は三つあり、「防衛基盤の充実・強化」「防衛基盤の醸成」であり、統率方針とこれら三つの使命を実行ならしめるため、諸官には次の二点を要望します。

第一は、「責務の完遂」です。各人はそれぞれの地位・役割において、何を為すべきか、今やつてくることで十分か、今一度原点に立ち返って考えてもらいたいと思います。すべての任務に的確に対応し、与えられた任務を完遂していくためには、まずは平時からの物心両面の準備を整えるとともに、いづれ何なる任務にも即応できる態勢を維持しておくなければなりません。

第二は、「和と風通し」です。自衛隊の根幹は人であり、我々は運命共同体です。地方協力本部が丸一つとなって任務を遂行するには、相互の融和と団結と信頼関係が不可欠です。そのためには、情報の共有が必要であり、悩みや愚痴を言える風通しの良い環境が大切であると考えています。よって、まずは挨拶をしましょう。元気がない者は声を掛けよう。家族とも仲良くしよう。お互い嘘をつくのはやめよう。そして、常に笑顔で苦業を共にしていこう。」と訓示されるところに、「国民の負託、そして、熊本県民の期待と信頼に応えるべく、与えられた任務と目標を達成するため、諸官と共に全身全霊で職務に邁進することとをここに誓い、着任の辞とします。」と決意を述べられました。

部員一同は、仲西本部長のもとで一致団結、更なる目標達成に向け、新たな気持ちで業務に取り組んで参ります。



氏名 仲西 勝典

階級 1等陸佐

出身地 福岡県

生年月日 昭和45年
12月4日

主要経歴 平成5年10月 第12施設大隊（新 町）
平成12年8月 第310施設中隊長（高 田）
平成16年5月 イラク復興業務支援隊
平成21年3月 第10施設大隊長（春日井）
平成25年12月 陸上幕僚監部
人事第2班長（市ヶ谷）
平成27年12月 第10施設群長（船 岡）
平成29年8月 陸上幕僚監部監理部
総務課長（市ヶ谷）

発行所
自衛隊熊本地方協力本部
〒860-0047
熊本市西区春日2丁目10番1号
熊本地方合同庁舎B棟3階
TEL 096-297-2053
熊本地本 検索
https://www.mod.go.jp/pco/kumamoto/

熊本地本 HP
熊本地本 Twitter

お陰様で熊本地本Twitterフォロワー数
2000人達成!!

今後のイベント情報や活動状況を逐次アップしていきますので、応援よろしくお願いします!



11月・12月の主なイベント

11/29(金) #熊本地本創立13周年記念行事
ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイ
12/6(金) #第8音楽隊 第44回定期演奏会
熊本県立劇場

お問い合わせはこちら
熊本地本 TEL 096-297-2053

400 600 400 900



前本部長
濱田 1 佐
離任

八月二十三日（金）付で、第七代自衛隊熊本地方協力本部長、濱田博之一等陸佐は、陸将補に昇任され、統合幕僚監部報道官として御転載されました。

濱田前本部長は、要望事項に「創造」と「挑戦」を掲げ、平成二十九年八月から令和元年八月まで約二年間勤務されました。在任間は、統率方針の具現化に向け、各業務を計画的かつ効果的に推進し、厳しき所命任務の完遂を基礎として、地方協力本部業務全般における更なる成果獲得のため、「業務の総合一体化」を図るとともに、防衛協力諸団体、地方公共団体及び企業等各種団体との連携強化に努める等、目標達成に向けた効果的・効率的な施策を次々と打ち出されました。

特に、令和元年七月七日（日）濱田前本部長が企画され、熊本地方協力本部後援会をはじめとする防衛協力諸団体との協賛による広報イベント「第一回 じえたいフェスティバル熊本」においては、約九、〇〇〇名の方々に会場、前日に行われた定期音楽演奏会と併せ、自衛隊への理解の促進を図る等、多大な功績を残されました。

また、二年連続「陸上幕僚長表彰（第二級賞状）」という輝かしい成果を残され、熊本地方協力本部の歴史に新たな一ページを刻まれております。

離任式に際して、二年間の勤務に対する感謝と熊本地方協力本部の更なる発展を要望され、全部員の見送りを受け、熊本地方協力本部を後にされました。

各種採用試験スタート!!

自衛官になるための熱気は最高潮!!



九月十六日(月)、熊本地方合同庁舎において航空学生採用試験、九月二十一日(土)熊本学園大学をはじめ県内五ヶ所において一般曹候補生一次試験及び自衛官候補生の筆記試験を実施した。特に、一般曹候補生及び自衛官候補生は最も多く入隊者を採用する種目であり、今回は一般曹候補生四〇〇名、自衛官候補生四百十二名の志願があり、自衛官を目指す若い受験生達が試験に臨んだ。

今年度は、学校等説明会や隊員自主募集の成果もあり、各試験会場は、独特の緊張感と情熱溢れる若い熱気に包まれていた。特に、受験生達の試験に臨む真摯な姿勢と真剣な眼差しがとても印象的であった。

続いて、二十二日(日)から二十七日(金)にかけて自衛官候補生の口述試験及び身体検査を実施した。口述試験においては、志望動機、質問に対し「国民を守り、家族を守っていきたくて」「災害派遣に従事し被災者を助けたい。」など自分の考えをしっかりと述べ、純粋に自衛官を目指す気持ちと逞しさを肌で感じた。



航空学生の一試験は、筆記試験と適性検査を実施した。志願者四十八名が試験に臨み、適性検査に悪戦苦闘しながらも最後まで諦めず、真剣に取り組み姿を目の当たりにしてパイロットを目指す強い気持ち伝わってきた。

今回各試験の実施にあたり、熊本地本は丸々となつて連日早朝から準備を行い、試験に集中できるような受験者の立場に立った万全な受験態勢を整え、厳正かつ適正な試験を行うことができた。引き続き各種採用試験においても万全な態勢を整え進めるところである。



この熊本の地から自衛隊の将来を担う若者が一人でも多く合格し、入隊することを切に願っている。

合同企業説明会

任期制隊員の再就職活動本格始動!!

令和元年8月21日(水)、グランメッセ熊本(上益城郡益城町)において、令和初となる「令和元年度第1回熊本県任期制隊員合同企業説明会」を自衛隊援護協会福岡支部との共催により開催した。

本説明会は、年度末に任期を満了し退職を予定する隊員が具体的な再就職準備を始めるために例年実施している。

今回の説明会には、熊本県内に就職を希望する隊員等45名が県内外から参加した。一方、企業側からは、熊本県内に事業所を持つ、89社に参加していただいた。

合同企業説明会の冒頭、援護協会福岡支部長と熊本地方協力本部長が参加企業に対し挨拶を行い、その中で熊本地方協力本部長は「旺盛な責任感・使命感等を持っており、皆様の会社においても期待に応えることができると信じています。」と参加隊員を紹介し、退職自衛官の再就職についての理解と協力を依頼した。



職場体験ツアー

大空が働く舞台!!

空自芦屋基地見学

7月31日(水)に空自芦屋基地が企画する基地見学会を活用した自衛隊職場見学ツアーを実施した。

この日は、航空自衛隊の説明、芦屋基地に所在する部隊の職場見学及び体験喫食というプログラムで実施し、自衛隊受験を希望する高校生等及びその保護者8名が参加した。



部隊見学では航空機の運航に係る部隊の他に、高射部隊及び施設部隊といった地上で勤務する部隊が存在することに驚いていたが、装備品を間近に見ての説明に熱心に聞き入っていた。

特に、ブルーインパルスで有名な「T-4練習機」を見学した際は、コックピットに着座しての説明を受け目を輝かせていた。この後、他の航空機についても熱心に見学していた。また、隊員との懇談では、「なぜ航空自衛隊を選んだのか。」「休日などは何をして過ごしているのか。」などの質問をし理解を深めていた。

熊本地本では、今後も一人でも多くの学生等に自衛隊入隊を志願してもらうため、また、保護者の方への理解を深めていただけるような募集広報活動に尽力していく。



隊員と企業の面談は、午前・午後各3回(1回あたり30分)の合計6回実施し、隊員たちは事前に参加企業の情報を入念に調べ、興味を持った企業のブースを訪問し、面談の中で双方が説明や質問を行い、疑問点の解消に努めた。面談終了後には、隊員と企業がそれぞれ面談結果票によりマッチングの確認を行った。

参加した隊員からは「資料で見るより、会社に対する具体的なイメージが湧いた。」といった感想の他、「仕事内容に興味があったが、給与が希望以下だった。」といった声が聞かれ、厳しい現実を実感していた。

一方で、企業側からは隊員について「礼儀正しい。」「笑顔が多い。」等の好評価を得た他、今後の就職活動に役立つ面談に対する姿勢や、会社選びについてのアドバイスが寄せられた。

今後は、このマッチングの結果を基に任期制隊員、部隊及び地方協力本部が一体となって、具体的な就職活動を開始し、多くの隊員は年末にかけ就職試験や面接を行ない、来春には新しい職場で新生活をスタートさせることとなる。

また、募集課と連携して募集相談員に対して合同企業説明会の研修を行い、入隊はもとより退職に至るまでお世話するところを見てもらい、安心して自衛隊入隊を勧められるよう理解を求めた。

熊本地本は、任期制退職予定隊員が退職後も安定した生活が送れるよう、引き続き良質な求人情報の獲得と退職隊員の処遇向上を目標として業務に邁進していく所存である。

表紙は、自衛官募集用のポスターとして、ご活用下さい。

イージス艦の大迫力に魅せられて 艦艇広報 in 「あしがら」

8月2日（金）宇土マリーナ沖合いに停泊中の護衛艦「あしがら」の艦艇見学を実施し、県内各地より入隊予定者、募集対象者及び募集協力者等27名の方々が参加した。

見学は、宇土マリーナから搭載艇で沖合いの護衛艦を目指すクルージングから始まった。当日は、夏日で気温は30度を越しており、参加者は額に汗を滲ませてはいたが、刻々と近づくイージス艦の迫力と艦艇見学への期待に胸を弾ませ目を輝かせていた。

護衛艦に到着後は、概要等の説明を受けたのち3グループに分かれ艦艇内をそれぞれ見学した。参加者の高校生からは「将来は護衛艦の搭乗員になりたい!!」、「熊本にイージス艦が来るのは珍しいので参加できて良かった。」「次の試験は必ず受けます!!」などの感想が聞かれた。

約1時間の見学後は、行きと同じく搭載艇でのクルージングであったが、穏やかな海面と時折涼しく吹く潮風に吹かれ、参加者は皆満面の笑みであった。

熊本地本はこれからも様々な機会を利用し、自衛隊に対する理解を深めて頂くとともに、自衛官志望者の獲得を図っていく。



ロアッソ熊本との初コラボ 火の国くまもとをともに盛り上げて

8月4日（日）えがお・健康スタジアムにおいて、ロアッソ熊本ホームゲーム第19節に広報・募集ブースを設置するとともに、陸上自衛隊第8師団の協力を得て自衛隊装備車両の展示を行った。

これまでロアッソ熊本と自衛隊は、曹友会が中心となり各種ボランティアを実施してきたが、ロアッソ側から「熊本地震復興マッチ」への支援依頼がきっかけで、初めて装備品車両の展示等を実施した。今後も年1回、同様の支援（コラボ）を継続する予定である。

当日は気温40度に迫るほどであったが、赤のユニホームに袖を通した多くのサポーターが来場し、みなさんからは「自衛隊の車両を初めて近くで見た。」



「自衛隊に関心を持つ、良い機会になりました。」などの感想が聞かれた。

熊本地本は、今後も様々なイベントに参加し、自衛隊に対する理解を深めていただくとともに、自衛官志望者の獲得を図っていく。

八月十七日（土）大分県日出生台演習場における、方面戦車隊の部隊射撃及び湯布院駐屯地において体験喫食及び史料館見学を実施した。熊本県防衛協会青年部会、会長 副島健史様をはじめご家族を含む十一名の方々が参加された。

防衛協会青年部会 （日出生台演習場） 部隊研修



この研修会の目的は、部隊の射撃や施設等の研修を通じ自衛隊の任務及び役割について学び防衛意識の高揚と更なる防衛基盤の充実発展を図ることを目的としていた。



うと地蔵まつり 多くの協力を得て募集広報



8月23日（金）に宇土市で行われた「2019 うと地蔵まつり」（約4万人が来場）に、第8師団の支援を受け、装備品展示により本まつりを支援した。

当日の天気は曇りのち雨で蒸暑い中、装備品展示及び広報ブースには、約2,000名が詰めかけた。部隊からは、第8師団司令部、第42即応機動連隊、第8後方支援連隊、第8偵察隊、第8特殊武器防護隊の装備品を展示した。

自衛隊熊本地方協力本部としても、今年度初めて任命した広報大使も参加し、本まつりにおいて自衛隊のPRを積極的に実施した。また、広報ブースにおいては、海上自衛隊佐世保地方総監部の支援を受け、陸上自衛隊の災害派遣活動パネル・戦闘糧食展示、缶バッジ作成やエアークマモン人形との記念撮影、海上自衛隊の防火着や救命胴衣体験及び海上自衛隊マスコットのナマコロ人形との記念撮影並びに陸・海共同での制服試着コーナーなどそれぞれが人気で、日頃は触れることのない装備品等、体験した多くの人が満足するとともに自衛隊への関心と期待が感じられた。その他、自衛隊（自衛官）に興味を持つ者、受験を希望する者及び保護者に対しては、自衛官等採用試験種目を紹介し、陸・海・空の職種や日常業務、処遇、福利厚生等、丁寧に説明するとともに質問に対してもわかり易く説明し、自衛隊（自衛官）に関する理解を深めた。

唯一残念なことに、途中から大粒の雨が降り出したため、展示終了時間を1時間繰り上げる結果になった。その後、雨は降り続いたが宇土市の夜空に大輪の花火が打ち上がり、まつりはフィナーレを迎えた。

本まつり支援は、宇土市、熊本県防衛協会宇土支部、宇土市自衛隊家族会、熊本県隊友会宇土支部の協力を得て自衛隊の広報活動を実施しており、今後も自治体をはじめ、協力諸団体との連携を深め、更なる活動を積極的に実施していく。最後に来場者の夏の思い出の一コマ創りと、併せて自衛隊への更なる理解と協力を促進し、自衛隊熊本地方協力本部の任務完遂に努めていく所存である。



令和元年度 予備自衛官中央訓練

令和元年八月二十三日（金）から二十七日（火）までの間、関東地区駐屯地等において実施された令和元年度予備自衛官中央訓練に熊本県代表として参加した。

本訓練は、全国各地から選抜された優秀な予備自衛官六〇名を、朝霞に招集し実施されるもので、主な訓練は、東富士演習場での富士総合火力演習の研修及び駒門駐屯地においての市街地戦闘訓練である。その他市ヶ谷駐屯地に場所を移して各種の訓練が行われる。

初日は着隊早々、朝霞駐屯地において強い日差しの中で小銃弾薬のマガジンの交換要領から夜間の訓練まで長く厳しい訓練が実施された。

二日目は、陸上自衛隊最大級の火力演習である富士総合火力演習の研修で最新の装備火器による迫力満点の射撃を研修し、その後駒門駐屯地に場所を移し、空包を使

用した車両からの下車戦闘訓練及び近接格闘訓練等が実施された。三日目は、駒門駐屯地において早朝から総合訓練が実施され、女性隊員含む六〇名全員で協力し合い無事訓練を終了した。そのほか、陸上幕僚長との懇談や市ヶ谷記念館見学等各種の行事が実施され、参加した小田憲正予備三等陸尉からは「私が、この中央訓練に参加して第一に感じたのは、真に役に立つ予備自衛官として自覚し、有



事の際でも、戦える予備自衛官にならなければならないという事です。」などの大変心強い感想が聞かれた。

退職自衛官を採用して 雇用企業様の声

九州産交バス株式会社
取締役 貸切バス事業本部
統括本部長 有村 謙一 様

1. 企業の概要

九州産交バスグループでは熊本県内のほぼ全域を網羅する「路線バス」、地域の足として欠かせない「コミュニティバス・循環バス」の運行を中心に多彩なバス事業を展開しています。

熊本市内から阿蘇くまもと空港までを結ぶ「空港リムジンバス」や、九州主要都市への移動は「九州都市間バス」。また、九州を横断する「九州横断バス」は、熊本、阿蘇、黒川、湯布院、別府と九州を代表する観光地をつないでいます。その他、関西・東海へは熊本とダイレクトに結ぶ「夜間高速バス」を運行しております。

私の担当している貸切バスは、熊本県内有数の保有台数を持ち火の国をモチーフにしたカラーリングバスで、熊本・福岡、九州圏内をお客様のニーズに合わせて多彩なバス旅行を演出しております。安全面において全車に衝突防止補助システムを導入、また各車両に AED を搭載しており、皆様の安心安全で楽しい旅の提供を目指しております。

2. 退職自衛官の採用理由

退職自衛官採用に当たっては現職時代において培われた使命感・責任感、特技訓練などにより取得した大型二種免許を保有し、業務の第一線において即戦力として期待できると判断し採用致しました。

3. 退職自衛官の職務内容および勤務の様子

今回入社頂いた久津和浩さんは、バスの運転経験がないことから、マンツーマンによる 2 ヶ月の乗務員教育を受講、その後、定期観光バス 6 ヶ月・快速バス 4 ヶ月乗務した後、貸切バス乗務員として活躍しております。

「安全・安心・快適」をモットーにお客様の立場にたって、誠実に仕事を進めていただいております。今後においても、豊富な人生経験を生かされてご活躍頂けるものと確信しております。

予備自衛官 表彰

令和元年

第三次

■西部方面総監表彰(定年)
三等陸尉 田口 勝彦氏(熊本市)
一等陸尉 星 乃 春氏(山鹿市)
三等陸尉 富岡 忍氏(熊本市)
准陸尉 南 利 武氏(阿蘇郡)
陸士長 平原 貴文氏(熊本市)

■熊本地方協力本部長表彰(勤続五年)

一等陸尉 中西 誠氏(熊本市)
二等陸尉 柏 崎 徹氏(八代市)
三等陸尉 雀ヶ野 博氏(熊本市)
准陸尉 新城 茂 強氏(熊本市)
准陸尉 新 義 輝氏(合志市)
准陸尉 竹 三 春氏(熊本市)
准陸尉 佐 郎 郎氏(熊本市)
准陸尉 長 藤 俊 治氏(熊本市)
准陸尉 深 田 真氏(菊池郡)

第四次

■陸上幕僚長防衛表彰(勤続二十年)
一等陸尉 平塚 千里氏(熊本市)
三等陸尉 村 田 真哉氏(熊本市)

■西部方面総監表彰(定年)

准陸尉 濱 田 俊次氏(熊本市)
准陸尉 古 川 勝博氏(熊本市)

■熊本地方協力本部長表彰(勤続五年)

二等陸佐 迫 間 信次郎氏(熊本市)
二等陸佐 澤 満 弘氏(熊本市)
准陸尉 本 田 誠治氏(菊池郡)

祝 定年退官



9月18日付退官
陸曹長 寺本 浩

入隊年月日 昭和59年3月29日
自衛隊歴 35年7ヶ月

皆様のおかげをもちまして、無事に定年退官を迎えることができました。これまで多くの方に出会い、支えられました事に感謝いたします。皆様の、今後益々のご発展とご健勝を祈念申し上げます。

永年に亘る自衛隊勤務
大変お疲れ様でした。

令和元年度 前期表彰受賞者紹介

第三級賞詞(職務遂行)
宇城所 一等陸曹 渡邊 親介
第四級賞詞(職務遂行)
熊本所 空曹長 林 謙一
玉名所 陸曹長 小澤 武徳
菊池所 陸曹長 藤山 亨
八代所 二等海曹 熊本 真栄
宇城所 三等海曹 北村 海成
第五級賞詞(職務遂行)
募集課 防衛事務官 光永 貢
募集課 二等海曹 宮城 克也
援護課 准陸尉 清田 陽史
熊分所 陸曹長 小西 健次
玉名所 陸曹長 橋本 健次
山鹿所 陸曹長 前田 正信
天草所 空曹長 平方 政彦
第四級賞状
宇城募集案内所
第五級賞状
熊本分駐所・募集案内所
援護課予備自衛官班
第五級賞状(車両無事故)
宇城所 一等陸曹 澤田 友和

人事往来

転出者(八月一日付)
西情隊 一等陸曹 安田 新一(総務課)
小月教空群 一等海曹 藤田 淳(募集課)
転入者(八月一日付)
総務課 陸曹長 堀内 守博(需品学校)
援護課 陸曹長 真田 未佳(西シ通群)
総務課 三等陸曹 下田 健斗(西特隊)
転入者(八月五日付)
募集課 二等海曹 古里 龍司(あしがら)
転出者(八月十三日付)
22整備 一等海曹 宮田 信二(援護課)
転入者(八月二十三日付)
援護課 二等海曹 潮田 真一(22整備)
転出者(八月三十日付)
あさゆき 二等海曹 宮城 克也(募集課)



自衛官募集

18～32歳の方、お気軽にお問い合わせください。
Tel : 096-297-2051
Mail : recruit1-kumamoto@pco.mod.go.jp



熊本地本 Twitter



熊本地本 HP